

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 12 月 11 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3873700409		
法人名	株式会社 ステージアップ		
事業所名	グループホーム 優瑠里		
所在地	八幡浜市保内町喜木1-166-1 (電話) 0894-29-4122		
管理者	岡本 詠子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 9 月 19 日	評価確定日	平成 19 年 12 月 12 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 8 月 25 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 15 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	人

### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,500 円	その他の経費(月額)	39,000 円
敷金	有( )円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	150 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

### (3) 利用者の概要 (平成 19 年 8 月 25 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護 1	1 名	要介護 2	4 名
要介護 3	9 名	要介護 4	2 名
要介護 5	1 名	要支援 2	1 名
年齢	平均 85 歳	最低 75 歳	最高 96 歳

### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い駐車場を備えた2階建てのホームは住宅に隣接し、遠方にみかん畑が広がる穏やかな雰囲気の中に建っている。管理者は保育士の経験を活かし、利用者の力を育て、できないところをサポートし、笑い声が聞こえる明るいホームを目指している。「ホーム便り」を毎月発行して利用者の楽しそうな暮らしぶりを伝えることで、家族も安心できている。「食事」「入浴」「排泄」「生活歴」の4班を設け、職員全員がいずれかに所属して研修やマニュアル作成によりケアの質の向上に努めている。管理者と職員は内外の研修に積極的に参加、交流に努め、サービスの向上を図っている。災害対策は定期的な避難、防火訓練を実施するとともに、自主的に毎月19日を避難訓練の日と決め、防災対策に積極的に取り組んでいる。

## 【質向上への取組状況】

### ▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

外部評価の結果をスタッフ会議で全員に伝え、具体的な改善に取り組んでいるが、もう一步の工夫が望まれる。改善計画書を作成し、計画的、実践的改善に取り組むなどの工夫を期待する。

### ▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

今回は実践者研修会参加者が作成したが、自己評価の意義を理解し、次回からは管理者と職員全員での取り組みを期待する。

### ▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

市職員、利用者の家族、地域代表やボランティアグループ代表などを招き二か月毎に開催している。議題にはホームの活動報告、自己及び外部評価結果や、今後の取り組みなどを提示している。参加者からは意見や要望を出してもらい、日々のケアに活かし、サービスの向上を図っている。今後はさらに警察署、消防署等の参加・協力を期待する。

### ▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

「ホーム便り」と金銭出納簿のコピー及びレシートを毎月家族に郵送し、利用者の暮らしぶりを伝えている。苦情処理箱の設置もあるが、家族の訪問時のコミュニケーションやメール交換などで直接要望や意見を聞き、スタッフ会議で協議し、それらを運営に反映している。

### ▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

保育所や幼稚園の運動会での交流、地域の祭り、商店街の夜市や高齢者のグループ「仲よし会」へ参加している。ホーム主催の夕涼み会では地域のボランティア、高校生の協力を得て、約250名参加の盛大なイベントを開催し、利用者との連携を図っている。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム優瑠里

(ユニット名)

Aユニット

記入者(管理者)

氏名

岡本 詠子

評価完了日

平成 19 年 8 月 25 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「笑顔」「心の健康」「生きがい」は生活の中で大切なことだと考えるので、理念として掲げている。  (外部評価) 開設時に職員で話し合った理念を玄関、ユニットそれぞれの入口に掲示しているが、地域密着型サービスとしての役割が盛り込まれていない。	※	開設当時の理念のままなので、制度改正後の地域密着型サービスの役割を盛り込んだ理念の見直し求められる。また、運営規定、重要事項説明書などへの明記が望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 玄関、タイムレコーダーの横に掲示し、実践に取り組んでいる。  (外部評価) 管理者と職員は採用時や毎月開催のスタッフ会議で確認し合い、その実践に取り組んでいる。職員は利用者の表情や会話を通して理念の実践に取り組む姿勢と意欲はあるものの、理念自体が十分に浸透していない。	※	日々の生活の中から、スタッフの感じること等を挙げ、理念の再検討をし、管理者の作ったものでなく、職員全体で理念を作りあげていきたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 地域の民生委員、区長さんに運営推進委員になってもらい、理念を理解してもらえるよう伝えている。	※	特定の人だけでなく、地域で生活している方々に理念が浸透していくよう努める。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩や買い物で出会ったときの挨拶、野菜収穫時のおすそわけなど、近所づきあいができるようにしている。		近所の子供たちが気軽に遊びに来たり、散歩途中の親子連れが、立ち寄ったりしてくれる。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 保育所、幼稚園、学校との交流や、地域の高齢者の集会への参加、地域商店夜市への参加など交流ができるように努めている。	※	自治会や老人会への認知症に対する理解を深めていき、交流を持てるようにしたい。
			(外部評価) 地域の祭りや運動会、また、高齢者のグループ「仲よし会」などに利用者とともに参加し、地域との交流を図っている。また、年1回のホーム主催の夕涼み会は地域のボランティアや高校生の協力で約250名が参加し、交流を深めている。現在自治会や老人会に入会はしていないが、加入に向けた話し合いを進めている。	※	自治会や老人会への入会を通じ、更に利用者が地域住民と交流できる機会を持てることを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 職員が、地域のボランティア団体の会員として活動しているが、ホームとしての参加はない。	※	利用している学習療法を、足を運んでくれる地域の高齢者にも活用していただき、元気の素のひとつの方法にしてほしい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) サービス評価の目的や意義を職員全員に伝え、結果は、スタッフ会議で報告し、話し合い、改善方法をスタッフより出し合い、改善に努めている。	※	自己評価をスタッフ全員で取り組みたい。
			(外部評価) 今回、自己評価は実践者研修受講者が作成したが、次回からは職員全員で取り組むことにしている。外部評価の結果をスタッフ会議で報告し、評価を受けて名札や献立についてなど改善に取り組んでいるが、改善計画書は作成していない。	※	評価の意義を理解し、自己評価を全員で取り組み、また、両評価の結果を活かして計画的、具体的な改善に取り組むために改善計画書の作成を望む。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 毎回テーマを決めて報告し、質問や意見をもらい、座談会形式や、行事参加という形で意見の出やすいようにしている。	※	近所づきあいという形の運営推進会議にしたい。
			(外部評価) 市職員、地域代表、ボランティアグループ代表、利用者家族等を招き、2か月毎に開催している。ホームの活動報告やこれからの取り組み、また、評価の結果と改善点を議題とし、参加者からは意見や要望が活発に出され、それらをサービス向上に活かしている。しかし、参加メンバーの多様性があまり見られない。	※	消防署、警察や近隣住民にも参加を呼びかけ、より多様なメンバーで開催することを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に行政の方も出席してもらっている。市のGH連絡協議会で意見交換をしている。	※	気軽に行き来でき、意見交換や情報交換ができるようにする。
			(外部評価) 運営推進会議以外にも市担当者、合併前の町職員とともに行き来する機会を定期的に持ち、関係づくりを行っている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度を利用している入居者がいるので、何人かの職員には説明しているが、経営者、ホーム長しか学習会に参加していない。	※	全職員が内容を理解し、家族に質問されたら、対応できるようにしたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で気づいたときは、知らせあったり、スタッフ会議で議題にしたりして学んでいる。		経営者、ホーム長は常に注意を払っている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は、必ず2名以上の職員が立ち会うようにし、理解しやすい説明ができるようにしている。	※	契約時に利用者や家族が尋ねそびれたことが、後日でも納得いくまで質問できる関係を築く。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置しているが、利用されていない。 さわやか相談員の訪問を受けている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月の便り、金銭出納張報告を送っている。 家族のみのパスワードの必要なホームページで様子が見られるようにしている。 電話等で個別に必要なに応じて様子を知らせている。  (外部評価) 「ホーム便り」と金銭出納簿及びレシートを毎月郵送し、利用者の暮らしぶりを家族に報告している。また、家族の訪問時にもその都度報告している。		家族より、手紙やメールで感想などをいただいております。職員の励みになったり、運営の向上につながったりしている。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 訪問時や便り、電話等で、何でも言ってもらえる雰囲気作りをしている。 要望等は、職員で話し合ったり、申し送ったりして、共通理解をするようにしている。  (外部評価) 玄関に苦情箱を設置し、また訪問時のコミュニケーション等から要望や苦情が出される。また、メール交換の機会もあり、それらを運営に反映させている。		慣れあいになりすぎて、不満や苦情を流してしまわないように注意している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) スタッフ会議や申し送りノート等で意見交換をしている。 職員からの積極的な意見が少ない。	※	毎月のスタッフ会議を職員の持ちまわり担当による進行、内要検討にする。 毎週土曜日、ショートミーティングの時間を設ける。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 状況に応じて、パート職員の出勤要請をしている。 ホーム長が勤務調整の対応ができるようにしている。		馴染みの関係ができていないパート職員がいる。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 利用者への配慮をしながら、異動をしている。 異動時は慣れるまで複数勤務としている。		馴れ合いになりすぎたり、職員の育成に問題が生じたりしたとき、質の向上のために異動を考える。
			(外部評価) 異動や離職の申し出には話し合いをして対応しているが、熟年層の離職の傾向が強く、若いスタッフが定着しづらい。 交代のある場合は引継ぎ期間を十分とり、ダメージを防いでいる。	※	利用者が継続して馴染みの職員のケアを受けられるよう、さらに異動や離職を最小限に抑える取り組みを期待する。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修等はだれでも気軽に参加できるよう掲示し、希望を受け入れたり、計画立てて出席させたりしている。	※	研修に参加したら、報告だけで修了せず実践に生かせるようにする。
			(外部評価) 県及び南予グループホーム連絡協議会に所属し、会での研修に参加したり、市内他事業所との定期的な研修を実施するなど様々な研修を段階に応じ積極的に進め、研修内容をパートも含めた会議で報告し、内外の研修受講の機会を確保している。報告書も作成し、閲覧できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 疑問に思ったことや、解決しづらいことは、電話等で他のグループホームの管理者等と情報交換している。 自ホーム内の研修に、他の事業所の方にも声をかけ、参加してもらった。  (外部評価) 市グループホーム連絡協議会主催の年4回の研修や、4グループホーム合同のリーダー中心勉強会に参加し、また、訪問や電話での情報交換を通じてサービスの質を向上させていく取り組みを積極的に行っている。		市や、南予のGH連絡協議会や勉強会に参加している。 研修等で、名刺交換をして仲間を増やせるように職員の名詞を製作して持たせている。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 希望者にストレス解消の講習に参加してもらった。 職場外で、ざっくばらんに話をする機会を設けている。	※	バランスの取れたシフトが組め、特定の職員に負担のかかるようなことがないようにしたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員間で、してもらってうれしいこと、困ることなどのアンケートを取ったり、無記名で評価しあったりして、認め合ったり、改善したりできるようにした。 運営者は毎日顔を出している。	※	常にお互い様の気持ちが持てるよう、良い所の伸ばし合いのできる職員関係を作る。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用前の面談には、共感、受容の関係作りを十分理解している職員にあたってもらう。		必ず本人に会って、本人の思いに向き合ったり、表情を汲みとったりするように努めている。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人を含めた面談と、家族のみの面談の機会を持ち、これまでの経緯や、家族の求めるものを理解をするようにしている。	※	無理強いすることなく、全ての経緯や状況を話してもらえる関係を作りたい。



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応をする。 順番優先とし、他のサービス機関を紹介する。	※	相談に来られた人の全てのニーズを抱え込むのではなく、必要に応じて他のサービス機関と連携が取れる。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 見学してもらったり、説明を聞いてもらったりして、利用を決めてもらう。  (外部評価) 利用前に職員が自宅を訪問して本人と家族に面談したり、ホームの見学や泊まりを経験することから利用者が徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 支援する側、される側という意識を持たないよう留意している。  (外部評価) 支援する側、される側という意識をもたず、食事の準備、野菜作りやレクリエーションなどを共に楽しみながら過ごし、利用者からは人生の先輩として料理や農作業について学び、支え合う関係を築いている。		一緒に掃除する、料理する、楽しむ、笑うなど、得意分野で力を発揮してもらうことで、お互い様という気持ちを持てるようにしている。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の様子や職員の思いを伝えることで、家族の思いも伝えてもらう。		情報の共有に努めている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 行事に参加してもらったり、面会に来てもらったりしている。		地域の行事や、家族の行事のための外出、外泊等で、家族と過ごすことの有意義さを理解していただく。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔から利用していた美・理容店に行ったり、店に買い物に行ったりしている。 友人に便りを出す。	※	昔からの知人に認知症について理解していただき、つきあいを続けてもらうよう手助けする。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 一緒に活動できることを用意したり、個別に話を聞いたりして、職員が調整役になって支援している。		利用者同士の関係を職員が共有し、その日の心身の状態や気分、感情の変化を注意し、汲みとるよう努め、利用者同士の関係が円滑になるようにしている。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 利用が終了しても行事に誘ったり、便りを送ったりしている。	※	いつでも足を運んでもらえる関係を継続する。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で声をかけ把握に努めている。  (外部評価) 家族からの情報と食事時の会話や買い物の同行など様々な機会を通して一人ひとりを把握し、表情や行動から思いや希望の把握に努めている。		ストレートに表現できる方、裏返しの表現をされる方、言葉にされない方がいるので、日々の行動や表情から汲みとるようにする。 家族との検討も大切にする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人自身の語りや、家族、知人の訪問時などを利用し、把握に努めている。	※	生活歴を収集し、センター方式に結びつける。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々様子を記録として残し、その人全体の把握に努めている。	※	一人ひとりの生活のリズムや、心身の状況を様々な面から把握し、センター方式に結びつける。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 日々の記録や職員間の情報共有と、家族からの思いを交えて、介護計画を作成している。  (外部評価) 本人と家族からの聞き取りを基にスタッフ会議でアイデアを出し合って協議し、運営を分担する班の一つ「生活歴」が中心になり、遊びながらの学習療法を用いて生活歴を探る工夫もして本人本位の介護計画を作成している。	※	職員間で話し合い、集めた情報と照らし合わせ、介護計画を作成する。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 定期として3ヶ月ごと、春、夏、秋、冬の生活リズムで見直している。 体調変化、本人、家族の希望があった場合、見直している。  (外部評価) 利用者の体調の変化を考慮し、季節毎に定期的に見直しを行い、また、出勤時に業務日誌に目を通し、利用者の体調の変化や家族の希望によりその都度の見直しも行い、現状に即した計画を作成している。	※	介護計画の遂行状況、効果などの評価をすると共に、多方面からの見直し、検討の機会を持つ。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 申し送りや会議等で、日々の様子や変化の共有を図り、見直しに活かしている。 伝達が正しく伝わらず、情報を共有できないことがある。	※	職員の気づきや利用者の状態変化を正しく記録に残し、正確に情報の共有をする。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 医療連携体制を活かして、受診や体調管理をしている。  (外部評価) 本人の要望や家族の状況等に配慮し、かかりつけ医以外の医療受診の同行やお通夜への同伴など、柔軟に支援している。	※	近隣の高齢者が、気軽に足を運べるよう、多機能性を活かしたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員、ボランティア、教育機関との協力や働きかけ、訪問等がある。	※	警察、消防とのつながり、協力体制を持つ。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 以前住んでいた地域の高齢者の集まりに参加している。	※	地域の老人会や公民館活動に参加する。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 空き情報の提供をしている。	※	事業所だけで解決できない問題や、地域団体との交流を、包括支援センターと協働する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 長年受診していたかかりつけ医への受診の援助をする。家族との話し合いの結果、かかりつけ医を決定する。  (外部評価) パーキンソン病や脳梗塞による後遺症に必要な週1～2回の医療マッサージを家族の同意のもと受診できるように支援している。		利用前のかかりつけ医や希望する医療機関への受診の支援をする。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 長年のかかりつけ医が認知症に詳しくない場合、家族と相談して専門医に受診し医師同士の情報交換をしていた。		様子を詳しく医師に報告することで、薬を軽減したり、対応方法を検討したりしている。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師の有資格者がおり、他の職員と同じく介護職に従事していて、気軽に相談ができ連携が取れている。		看護師有資格者を看護職員として配置すると、他の職員との溝ができたり、意見のぶつかり合いができたりするので、同じ職務で勤務してもらうことで、相談、協力体制がスムーズにできる。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時は、本人の支援方法に関する情報を、医療機関に提供する。		入院によるレベル低下をできるだけ少なくするため、頻繁に職員が見舞うようにしている。
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 直面していないため、方針等できていない。対応し得る最大のケアについて説明を行っている。  (外部評価) 事業所としてターミナルケアを積極的には受け入れていないが、利用者の重度化に伴い、家族との話し合いと医師の判断により訪問看護を受け、看取りを行った経験がある。しかし、重度化に伴う終末期のケアのあり方や事業所の方針を決めていない。	※	対応し得る最大のケアを、家族、医師を交えて方針を定め、チームの連携を図る。
				※	今後も終末期への看取りの要望が出るのが想定されるため、ホームとしての方針を決めるとともに、職員全員の学びと方針の共有を望む。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 終末期を迎えることはなかったが、急変した場合は家族に連絡し医療機関での治療となる。	※	本人の気持ちを大切にしつつ、家族の意向も踏まえ、医師、職員が連携し、他の入居者への影響も考え、終末期を過ごしていけるように取り組む。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 介護サマリー等を作成し、早期理解に努めてもらう。	※	馴染みの職員が訪問に行ったり情報交換をしたりして、リロケーションダメージを少なくする。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 必要以上に大きい声を出すことがある。  (外部評価) 倫理綱領にプライバシー確保を明記し、職員はその重要性を認識したうえで日々の介護や声かけに配慮し、プライバシー確保の徹底に努めている。	※	人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして傷つけることのないよう、配慮ある言葉かけや対応をする。個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底を図る。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 複数の選択肢を提案し、自分で決める場面をつくる。	※	認知度が進んだ場合も自己決定ができるよう働きかける。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の一人ひとりのしたいことを実施することは難しく、職員の誘いかけや、誰かのしていることの共同作業となることが多い。  (外部評価) 一人ひとりの体調や希望を大切にし、本人の趣味や得意なことを活かす工夫をして、希望に添う支援に努めている。	※	趣味や得意なことを周りを巻き込みながらできるようにしたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 馴染みの理容美容店のある人は出向いていく。化粧の援助をする。	※	着たい服を自分で選ぶ。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立を知らせ、下準備をしてもらったり、一緒に料理をしてもらったりする。 菜園で収穫した野菜で料理する。  (外部評価) 畑から収穫した季節の野菜を使ったり、買い物や調理の下ごしらえを利用者と職員が行っている。職員と利用者が共に食卓を囲んで会話をしながら食事をするなど、食事が楽しみとなるよう支援している。	※	献立作りから買出し、調理、後片付けとつながって楽しめる食事。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 家族との話し合い等で少し制限することもあるが、本人の希望のある物は、楽しんでもらっている。		他の利用者に迷惑がかからないよう配慮しながら、嗜好品が楽しめる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 時間や習慣を把握したトイレ誘導をすることで、トイレにて排泄をしてもらう。身長に合わせた台を置くことでしっかり地に足をつけた排泄をしてもらう。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 10:00～16:00ではあるが、希望するときに入浴してもらう。毎日入浴できる。 身長に合わせた手作り補助具によりゆっくり入浴できる。  (外部評価) 基本的な入浴時間は決めているが、早く入浴したい利用者に合わせたり、入浴が苦手な利用者には相性のいい職員が担当するなど、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。	※	夕方から夜間の入浴体制がとれる。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。眠れないときは好きな飲み物を勧めたり、おしゃべりをしたりして、ゆったりしてもらう。		眠剤利用者0（ゼロ）
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。 行事への参加や製作、作業への取り組みなど、経験や知恵を発揮する場面を作っている。  (外部評価) 一人ひとりの生活歴や力を活かして、俳句をホーム便りに載せたり、居間に掲示している。また、畑での野菜作り、洗濯、料理などの役割を担って貰い、気晴らしや楽しみごとの支援をしている。お茶の先生だった利用者に活躍してもらうことも検討している。	※	家族と協力して生活歴や楽しみ、好きなことを見つけ出し、自分のできることを増やしていく。



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族との相談により、小遣いを持ち、嗜好品を買いに行かれる。自己管理の希望がないこと、また、混乱したり、隠して分らなくなったりするとの理由で、自己管理はしていない。	※	外出した際は自分の財布からお金を出す機会を作り、社会性の維持につなげる。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 買い物への同行、ドライブ、理髪など目的を持って戸外へ出かける。 季節によっては外出できない日の多いこともある。  (外部評価) 食材の買い物、利用者の要望の買い物や散歩、利用者の実家の畑へ出かけるなど、利用者の日々の希望に添って戸外に出かける支援をしている。	※	職員優先にならず、外出する利用者や時間帯や行き先が固定されないように、本人に合わせた移動方法で外出支援する。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 本人が行きたいと思う遠い場所や、生活歴から職員が連れて行ってあげたいと思う外出については、予め予定を立て、職員の勤務を調整したり、家族の協力を依頼したりする。	※	利用者の思いが出された外出は、実現するための方策を職員で話し合い、検討し、支援につなげる。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人に電話ができる声かけや雰囲気作りをし、遠慮しないで済むよう電話料金をいただく。 年賀状を声かけや援助で出すようにする。 手紙をもらったら、返事を書く援助をする。	※	絵手紙に挑戦し、便りを出す機会を増やす。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 家族や知人が来られたとき、自然な形で歓迎している。 行事等のあるときは誘いかける。 居室にくつろげる空間のない入居者の場合は、居室にテーブルや椅子を運び入れる。		知人には、家にいたとき訪ねていたときと同じように、足を運んでもらえることを知らせる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ会議等で確認している。 新人職員の職務初日に勉強会をしていないので、素早い理解ができていない。	※	気づかない言葉や動作による拘束に目を向けることができ、気づいたときに職員間で声かけのできる関係を作る。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中鍵をかけていない。 玄関にセンサーチャイムがある。(訪問者があった場合は分かる。)  (外部評価) 日中は鍵をかけずチャイム等で対応し、チャイムの音と利用者の行動のパターンを把握したうえで見守りしている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するように努めている。 夜間は居室全体的見渡せる場所で業務をしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 居室でヒヤリハットや事故があったとき、つい危険物を取り除いてしまった。	※	危険なものを全て取り除くのではなく、注意が必要な物、箇所を職員がしっかり把握し、管理過剰にせず、危険防止力も身につける。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 日々のヒヤリハットを記録し、事故が起きた場合は事故報告書を作成し、家族への報告と説明をしている。そして今後の予防を検討している。	※	ヒヤリハットを簡単に記録できるものにし、事故防止に役立てる。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 特定の職員のみ講習に参加している。	※	全ての職員が繰り返し応急手当の勉強会を行って、身につくようにする。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年2回消防署報告の避難訓練をしている。毎月19日は避難訓練の日としている。2階利用者の避難に難点がある。	※	近隣の方や、地域消防団と一緒に避難協力体制を整えたい。
			(外部評価) 消防署の協力のもと年2回の避難訓練と防火訓練を実施し、緊急時の連絡網を使い夜間の避難訓練も行った。模擬訓練での課題を認識して、今年度から毎月19日に避難訓練を実施することになっている。しかし、災害時の近所の協力体制がまだ得られていない。	※	2階からの避難が特に困難であることから、近隣住民の協力を得られるための取り組みを望む。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居者に、家族のさせてほしいこと、職員が見つけたできそうなこと、できること等を話し、リスクの危険もあるが、十分注意することを説明する。	※	起こり得るリスクを把握し、役割活動や自由な外出計画を立て、安全に実現する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 申し送り、業務日誌、介護記録のチェックで健康状態を把握している。 変化は直ぐにホーム長に連絡すると共に、職員で共有する。		顔色、機嫌、動作、食欲、皮膚の様子等いつでも注意し兆候を見落とさない。バイタルチェックだけに頼らない力を育てていく。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 名前、日付、朝昼夕の区別など、1つ1つ記入し、誤薬のないように努めている。 自己服薬できる人には、見守りで服薬していただく。	※	薬の目的、効果、用法、副作用など勉強会をして、しっかり把握できるようにしたい。 漫然と服薬を続けるのではなく、医師に情報提供をし、少しでも薬が減るようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 身長に合わせて足台を置き、しっかり踏ん張れるようにしている。 運動、姿勢、食事、水分に気をつけている。 排便チェックをし、便秘薬を使っている。	※	便秘薬なしで排便できるようにしたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の歯磨きの声かけを行い、自己ケアの後職員が仕上げをする。 就寝時は義歯をはずしてもらう。		毎食後の歯磨きが定着している。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分の摂取状況を表にまとめ職員が情報を共有している。 好み、カロリー、栄養、季節のものを考えて献立を立てているが、メニューに偏りのあることがある。	※	定期的に管理栄養士の専門的アドバイスをもらいたい。
			(外部評価) 水分摂取量を一人ひとり記録し、居室にもペットボトルやミニボトルを用意し、いつでも摂れるよう配慮して必要量を確保している。献立は管理栄養士作成の季節ごとのサンプルから、利用者の好みを考慮して立てている。しかし、日々の食事摂取量や栄養バランスについて専門家のアドバイスを受けていない。	※	職員が献立を作成し、その後栄養士にチェックしてもらう等の工夫で、より栄養バランス等に配慮することを期待する。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症に関して情報収集をする。 ペーパータオル使用。 訪問者に対しての感染予防が不備。	※	起こり得る感染症について、細かくマニュアルを作成する。 職員の体調管理は当然だが、体調を崩したときの感染を防ぐための取り決めを作る。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板、ふきは毎晩漂白している。 食材担当者が食材チェックをして、賞味期限内で使いきれよう残っている物を献立に入れ込んだりしている。	※	冷蔵庫の中にある物で献立を増やしたり、献立を変えたりできる。 点検や掃除は職員全員が気にとめることができる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先にベンチを置き入居者が涼んでいたりと、日向ぼっこをしたりしていることで温かみを感じられる。	※	近所の人が散歩途中で休憩したり、子供達が気軽に遊びに来れる庭先にしたい。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングにいますと、洗濯をしている音、料理の音、匂い、テレビ、電話の音など、生活音がよく聞こえ、家の生活を感じ取れる。  (外部評価) 玄関は段差がなく、廊下はゆったりと広く、手すりを設置して利用者の行き来に配慮している。居間は全員が囲める食卓とソファが置かれ、外光を十分に採り入れ明るく、手作りの絵や作品を飾っている。浴室は転倒防止、危険防止にきめ細かい配慮がある。		壁面の飾りは季節感を出し、季節を感じ取ってもらえるよう工夫したり、利用者に製作してもらったりする。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者同士の顔が見れたり、気の合った者同士で会話がはずむ場所を作ったりしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みのカーテン、じゅうたん等を使っていたが、消防法で防火にしないといけないため、替えたり撤去したりしたことが残念だった。  (外部評価) 利用者それぞれの好みの物や使い慣れたベッドやテレビ、手芸品、写真等を飾り、それぞれに個性がある。火災防止のため、カーテンとカーペットは防火用のものを使用している。名札は木札と写真入の物を掛けている。	※	殺風景な居室で生活している入居者の家族と、馴染みの物の大切さを話し合いたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 窓やドアの開閉、冷暖房のON、OFF、温度調節は入居者の訴えや発汗の様子等で注意を払っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 直し様のない建築上の問題のある物は、補助具などを作ることで一人ひとりに合った生活ができるようにしている。 椅子やテーブルは、個人に合ったものになっている。	※	一人ひとりの利用しやすい環境になるよう、日々観察、修繕できる力を育てたい。「まあいいか」という気持ちにならない。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 職員で話し合い、その人の力を生かせることは何かを見つけ出そうとしている。	※	入居者の動作や言動、表情などで、気持ちが汲みとれる職員でありたい。
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花壇、菜園を作り、季節の花、野菜を入居者と作ったり、草引き等の作業をしたりしている。		庭での食事やおやつを楽しむ。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらい 評価) 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんど掴んでいない	かなえてあげられない思いは、楽しみとして話をし、それに向けての思いを盛り上げる手助けをしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1 毎日ある (自己 ② 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	外気浴や日向ぼっこ、洗濯物たたみをしながらゆっくりと過ごす。昔話と職員の現在の生活の話混せて、談話を楽しむ。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の手が足りないとき、待たせてしまったり、せかしてしまったりすることがあるが、できる限りその人のペースに合わせるようにすべきであることを、職員は自覚している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	声をかけたり、誘ったり、一緒に行くことで、できることを増やしていくよう心がけている。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	生活歴や、知人関係などを聞き取り調査し、自ら希望されるとき、あるいは誘いかけにより、外出するようにしている。出たがらない方もいる。個々のお出かけプランも計画している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	希望の医療機関への受診を行い、また、健康チェックや視診、触診などで、適当な医療機関を選択している。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	生活日数が増えるにつれ、事例や対応の仕方が増え、職員の話し合いにより、様々な支援を試みている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	1 ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) ③ 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	要望や思い、気づいたことなどを言葉にしてくれる家族は決まっているので、気軽に何でも話していただける関係を作りたい。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 ② 数日に1回程度 評価) 3 たまに 4 ほとんどない	家族や知人、近所の子供が遊びに来てくれる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	散歩での会話や、行事への参加者の増加が見られる。日用品や野菜の提供などがある。
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員間で、優先順位や価値観が違っている場合、その日のメンバーの組み合わせで、楽しい日、仕事のきつい日ができてくるようだ。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自分のできることをされ、おだやかに過ごされている。 自分の思いを訴えられている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	クレームはあまりないが、これは満足しているのか、あるいは遠慮しているのか、判断しにくい点である。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・ 医療的 (悪いところを見つけて治す) 介護ではなく、 保育的 (いいところを見つけて伸ばす) 介護をする。
- ・ ヘルプ (余計なお世話によって、相手を物言わぬ受身の人へと変え、自分の意思ややりたいことを削いでしまう可能性がある)ではなく、サポート (やる気を出してもらうための黒子的な役割、出来ないところは手伝い、出来ることを見つけて伸ばし、自分にも出来ることがあることに気づいてもらう) でありたい。
- ・ 家族、知人、地域の方がいつでも遊びに来てくれるグループホーム。
- ・ 十人十色のサービスが出来るグループホーム。
- ・ 物的にも、人的にも明るい環境で、いつも笑い声が聞こえてくるグループホーム。
- ・ 食事、入浴、排泄、生活歴 (センター方式のケアプラン) の4班に分かれてチーム研修及び勉強、マニュアル作成などにより、プロジェクト展開中。



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム優瑠里

(ユニット名)

Bユニット

記入者(管理者)

氏名

岡本 詠子

評価完了日

平成 19 年 8 月 25 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「笑顔」「心身の健康」「生きがい」を理念に掲げ、その人らしい生き方を支援している。  (外部評価) 開設時に職員で話し合った理念を玄関、ユニットそれぞれの入口に掲示しているが、地域密着型サービスとしての役割が盛り込まれていない。	※	入居者の笑顔、笑いのある生活を目標に日々取り組んでいる。  開設当時の理念のままなので、制度改正後の地域密着型サービスの役割を盛り込んだ理念の見直し求められる。また、運営規定、重要事項説明書などへの明記が望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) スタッフルームやリビングに掲示し、職員全員で共有し、日々実践に向けて取り組んでいる。  (外部評価) 管理者と職員は採用時や毎月開催のスタッフ会議で確認し合い、その実践に取り組んでいる。職員は利用者の表情や会話を通して理念の実践に取り組む姿勢と意欲はあるものの、理念自体が十分に浸透していない。	※	職員全員で理念の再構築に取り組みたい。  理念をスタッフ会議、ユニット会などで話し合い、職員全員が共有し、日々のケアを振り返りつつ理念の実践へ取り組むことを期待する。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 理念の浸透は不十分であるが、施設の方針や日々の取り組みに関して、理解が得られるよう努力している。		毎月発行している広報誌や、2ヶ月ごとに行っている運営推進会議等で理解してもらえるよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近隣の人には日々の挨拶を心がけている。食材等も地域のスーパーから発注し、買い物に出かけている。近隣の子供たちが、気軽にホームに遊びに来てくれる。	※	園内で収穫した野菜等を入居者と一緒に近所におすそ分けに回ったりする。入居者の顔を知ってもらうためにも、訪問してもらう機会を増やしていきたいと考えている。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) イベントには隣近所や地域のボランティア、学校、保育園等にも呼びかけ、地域の行事への積極的な参加も心がけている。	※	自治会や老人会への認知症に対する理解を深めていき、交流を持てるようにしたい。
			(外部評価) 地域の祭りや運動会、また、高齢者のグループ「仲よし会」などに利用者とともに参加し、地域との交流を図っている。また、年1回のホーム主催の夕涼み会は地域のボランティアや高校生の協力で約250名が参加し、交流を深めている。現在自治会や老人会に入会はしていないが、加入に向けた話し合いを進めている。	※	自治会や老人会への入会を通じ、更に利用者が地域住民と交流できる機会を持てることを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) ボランティアに参加していただく機会は多いが、こちらから出向くことは少ないように思う。 職員でボランティアグループに入って活動している者がいる。	※	今後、地域貢献に向けて、ボランティア活動等に参加していきたいと考えている。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 外部評価によって指摘を受けた事柄に関して話し合い、改善に向けて取り組んでいる。研修等で他の事業所の良いところも取り入れるよう努力している。	※	自己評価をスタッフ全員で取り組む。
			(外部評価) 今回、自己評価は実践者研修受講者が作成したが、次回からは職員全員で取り組むことにしている。外部評価の結果をスタッフ会議で報告し、評価を受けて名札や献立についてなど改善に取り組んでいるが、改善計画書は作成していない。	※	評価の意義を理解し、自己評価を全員で取り組み、また、両評価の結果を活かして計画的、具体的な改善に取り組むために改善計画書の作成を望む。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催しており、事業所内での取り組みや入居者の状況等を報告している。そのとき気づいたことや、意見等を伺い、改善に活かしている。	※	近所づきあいという形の運営推進会議にしたい。
			(外部評価) 市職員、地域代表、ボランティアグループ代表、利用者家族等を招き、2か月毎に開催している。ホームの活動報告やこれからの取り組み、また、評価の結果と改善点を議題とし、参加者からは意見や要望が活発に出され、それらをサービス向上に活かしている。しかし、参加メンバーの多様性があまり見られない。	※	消防署、警察や近隣住民にも参加を呼びかけ、より多様なメンバーで開催することを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) グループホーム連絡協議会等で、市町村と意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	※	頻繁に、意見交換や、情報交換ができる体制を作る。
			(外部評価) 運営推進会議以外にも市担当者、合併前の町職員とともに行き来する機会を定期的に持ち、関係づくりを行っている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等により学ぶ機会はあるが、今、当ユニットには、該当者はいない。	※	今後、必要になったときに困らないよう、職員全員で学ぶ機会を持ちたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体拘束、虐待は行わないということを全ての職員が正しく認識しており、徹底されている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約を結ぶ際は2名以上の職員が分かりやすく説明し、家族等に納得を図るようにしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者の意見、不満に関しては、職員が理解し、そのつど対策を検討している。毎月2つの地域からさわやか相談員の訪問があり、入居者の方とじっくり話をし、様子等も把握してもらっている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時に、職員が暮らしぶりや日常の様子を伝えたり、広報誌で情報提供をしている。 金銭管理は定期的に出納を明らかにしている。  (外部評価) 「ホーム便り」と金銭出納簿及びレシートを毎月郵送し、利用者の暮らしぶりを家族に報告している。また、家族の訪問時にもその都度報告している。	※	職員の異動や入れ替わりを広報誌等に掲載し、報告の機会としてゆきたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議に参加してもらったり、面会に来られた際に意見や要望を伺っている。 玄関入り口に意見箱も設けている。  (外部評価) 玄関に苦情箱を設置し、また訪問時のコミュニケーション等から要望や苦情が出される。また、メール交換の機会もあり、それらを運営に反映させている。	※	ご家族にアンケート等で、意見、不満、苦情を伺う機会を作りたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月スタッフ会議を設け、研修報告や取組みについての経過報告、行事計画や結果報告を行っている。その他意見交換の場にもなっている。	※	じっくりと話し合う機会があまりないため、毎週土曜日にショートミーティングを開き、意見を出し合っていくことにしている。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 早朝や夜間等職員が1人になるため対応しにくい場合もあるが、状況の変化に応じて、経営者やホーム長、近隣に住む職員が柔軟に対応している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動等があった場合は、馴染みの職員がサポートしている。  (外部評価) 異動や離職の申し出には話し合いをして対応しているが、熟年層の離職の傾向が強く、若いスタッフが定着しつづめる。 交代のある場合は引継ぎ期間を十分とり、ダメージを防いでいる。	※	利用者が継続して馴染みの職員のケアを受けられるよう、さらに異動や離職を最小限に抑える取り組みを期待する。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 多方面の研修の参加を実施している。職員全員にケアの技術や工夫を身につける研修の機会が確保されており、希望する研修に参加している。  (外部評価) 県及び南予グループホーム連絡協議会に所属し、会での研修に参加したり、市内他事業所との定期的な研修を実施するなど様々な研修を段階に応じ積極的に進め、研修内容をパートも含めた会議で報告し、内外の研修受講の機会を確保している。報告書も作成し、閲覧できるようにしている。	※	研修内容を実践に生かせるようにする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 他の事業所との交流の機会があり、良いところを取り入れる努力をしている。  (外部評価) 市グループホーム連絡協議会主催の年4回の研修や、4グループホーム合同のリーダー中心勉強会に参加し、また、訪問や電話での情報交換を通じてサービスの質を向上させていく取り組みを積極的に行っている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員相互間で悩みを聞いてもらったり、食事会に行つて少人数で話をしたりしてコミュニケーションを取っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 多方面の研修の実施や、目標に向けての取り組みに対し、各グループリーダーを配置し、職員全体が、向上心を持って働けるよう努めている。	※	お互いの気持ちが理解し合えるような関係作りを進めていく。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居以前に面接し、家族や本人から話を伺い、不安や要望等について受け止めるようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族等と入居前に話を伺う機会を設けている。	※	家族等に、経緯や状況をすべて話してもらえるような関係を作る。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居者が出来ること、出来ないことを職員全員が見極め、必要な支援を行うようにしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居前に見学に来てもらい、施設内を見たり、入居者の方や職員と話をしたりしている。  (外部評価) 利用前に職員が自宅を訪問して本人と家族に面接したり、ホームの見学や泊まりを経験することから利用者が徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として教えてもらったり、支えてもらったりする関係を築いている。 レクリエーション等と一緒に楽しみ喜怒哀楽を共にしている。  (外部評価) 支援する側、される側という意識をもたず、食事の準備、野菜作りやレクリエーションなどを共に楽しみながら過ごし、利用者からは人生の先輩として料理や農作業について学び、支え合う関係を築いている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 頻繁に面会に来られる家族とは話す機会も多く、その都度関係を築いているが、面会の少ない家族については実施されにくい。		情報の共有に努めている。



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 複雑な家族関係にはあまり立ち入れない部分もあるが、よりよい関係が築いていけるよう、毎月広報誌を郵送したり、行事に参加してもらえよう案内したりしている。	※	面会の少ない家族に対して、交流の場を作る必要がある。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) なるべく大切にしていきたいと考えているが、生家や実家に帰りたいと願う方もおられ、難しい面も多い。	※	センター方式を活用し、ご家族との連携を行いたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 職員は利用者同士のトラブル等の原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	※	気の合わない方同士や衝突の起こり得る方同士のトラブルの回避や、精神的ダメージの回避に努めたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 体調の悪化で一度退所された方も、回復したらまた入居したいと順番を待っておられたり、ターミナルケアにて亡くなられた利用者のご家族が、今も差し入れを持って来てくださる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来る限り希望がかなうように努力している。 ほとんどの入居者が、自由で本人の意向に沿った生活をしていると思う。居室内側の施錠、テレビ、冷蔵庫の持ち込み、日中の過ごし方等。  (外部評価) 家族からの情報と食事時の会話や買い物の同行など様々な機会を通して一人ひとりを把握し、表情や行動から思いや希望の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式に基づきこれまでの生活習慣や暮らしについて把握できるよう努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一人ひとり自由に過ごしてもらっている。なるべく家事全般を協力してもらえるようにしているが、居室にこもってしまう方もあり、更に努力が必要である。身体状況については、毎朝バイタルチェックを行い、把握するようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者、ご家族の意見を反映させた実践可能なケアの見直しを3ヶ月に1回している。週に1度カンファレンスの日を設けていたがこのところ実施できておらず反省点が多い。毎週土曜日にショートミーティングの時間を設けることになった。 <hr/> (外部評価) 本人と家族からの聞き取りを基にスタッフ会議でアイデアを出し合って協議し、運営を分担する班の一つ「生活歴」が中心になり、遊びながらの学習療法を用いて生活歴を探る工夫もして本人本位の介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 定期的に計画の見直しに努めている。面会時に家族から要望を伺うようにしている。なお著しい変化があった場合は見直しをするようにしている。 <hr/> (外部評価) 利用者の体調の変化を考慮し、季節毎に定期的に見直しを行い、また、出勤時に業務日誌に目を通し、利用者の体調の変化や家族の希望によりその都度の見直しもを行い、現状に即した計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの「特徴や変化を具体的に記録し、情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。	※	職員が正確に情報を共有する。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 要望があれば、生活全般において出来ることは、何でも支援するようにしている。  (外部評価) 本人の要望や家族の状況等に配慮し、かかりつけ医以外の医療受診の同行やお通夜への同伴など、柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員やボランティアの方々に、運営推進委員になってもらい行事への参加等で協力してもらっている。消防に関しては避難訓練に立ち会ってもらい、消火器の使い方等指導してもらっている。高校生のボランティアの訪問や、保育園児の訪問等交流をしている。	※	万一行方不明者が出た場合や、事故や事件に巻き込まれた場合を想定し、警察との連携も必要になってくると考えられる。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) していない	※	地域の老人会や公民館活動に参加する。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) していない	※	事業所だけで解決できない問題や、地域団体との交流を、包括センターと協働する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 月に2度の訪診や定期受診、必要に応じての受診等を実施している。入居前のかかりつけ医院を継続している方も多い。  (外部評価) パーキンソン病や脳梗塞による後遺症に必要な週1～2回の医療マッサージを家族の同意のもと受診できるように支援している。		利用前のかかりつけ医や、希望する医療機関への受診の支援をする。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 受診の際は、気になる状態を詳しく説明し、指導をもらう。		様子を詳しく医師に報告することで、薬を軽減したり、対応方法を検討したりしている。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師の有資格者がおり、健康管理等、気軽に相談でき連携が取れている。		看護師有資格者を看護職員として配置すると、他の職員との溝ができたり、意見のぶつかり合いができてりするるので、同じ職務で勤務してもらうことで、相談、協力体制がスムーズにできる。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院された場合、医療機関との連絡を取ったり、見舞いに行く等して、情報交換や相談に努めている。		入院によるレベル低下をできるだけ少なくするため、頻繁に職員が見舞うようにしている。
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 共有できていない。  (外部評価) 事業所としてターミナルケアを積極的には受け入れていないが、利用者の重度化に伴い、家族との話し合いと医師の判断により訪問看護を受け、看取りを行った経験がある。しかし、重度化に伴う終末期のケアのあり方や事業所の方針を決めていない。	※	ターミナルケアを行う必要のある入居者については、家族の意向も伺いチームとして、決定していく必要がある。
				※	今後も終末期への看取りの要望が出るのが想定されるため、ホームとしての方針を決めるとともに、職員全員の学びと方針の共有を望む。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 今後検討していく必要がある。	※	話し合う場を持っていきたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 今後検討していく必要がある。	※	馴染みの職員が訪問に行ったり情報交換をしたりして、リロケーションダメージを少なくする。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 相手の立場に立った言葉かけに、十分留意している。記録に関しても、プライバシーを損ねるような取り扱いはしていない。  (外部評価) 倫理綱領にプライバシー確保を明記し、職員はその重要性を認識したうえで日々の介護や声かけに配慮し、プライバシー確保の徹底に努めている。	※	人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして傷つけることのないよう、配慮ある声かけや対応をする。個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底を図る。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 入居者の自己決定と希望を大事にしている。出来る限り一人ひとりの希望や訴えをかなえられるよう努めている。	※	認知度が進んだ場合も自己決定ができるよう働きかける。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) なるべく希望がかなうよう努力している。本人の訴えや要望により、ひとりの人につききりになることもある。  (外部評価) 一人ひとりの体調や希望を大切に、本人の趣味や得意なことを活かす工夫をして、希望に添う支援に努めている。	※	夜間や早朝の外出等、人員の都合上実現できていないこともあり、柔軟に対応していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 出張美容の契約をしており、要望の都度訪問してもらっている。外出や行事等、その人らしい服装を楽しめるよう支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 施設内で取れた野菜を使ったり、調理準備、皮むき、盛り付けなど、出来る方にしてもらっている。洗い物は、特定の人に偏っている。  (外部評価) 畑から収穫した季節の野菜を使ったり、買い物や調理の下ごしらえを利用者と職員が行っている。職員と利用者が共に食卓を囲んで会話をしながら食事をするなど、食事が楽しみとなるよう支援している。	※	もっと、全体に働きかけていく。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 居室内ではあるが、毎晩ビールを楽しまれている方もある。入居者の希望を取り入れ、嗜好の支援をしている。	※	一緒に飲む機会を作りたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 日中は全ての方が布パンツで過ごされている。夜間紙パンツを使用される方は1名のみ。こまめな声かけやトイレ誘導を行い、気持ちのよい排泄ができるよう心がけている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 休浴日を廃止し、毎日入浴できるようにしている。今のところ、職員数の確保できる時間帯で行っている。  (外部評価) 基本的な入浴時間は決めているが、早く入浴したい利用者に合わせたり、入浴が苦手な利用者には相性のいい職員が担当するなど、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。	※	要望により柔軟に対応していく。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 時間帯に関係なく、要望に応じて居室、リビングの畳、ソファで休んでもらっている。		日中の生活を充実させ、眠剤なしで眠れるようにする。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 園芸、食器洗い、洗濯物たたみ等、役割を自覚できることをしてもらっている。それまでの習慣を大切にし、本人の意思を尊重している。  (外部評価) 一人ひとりの生活歴や力を活かして、俳句をホーム便りに載せたり、居間に掲示している。また、畑での野菜作り、洗濯、料理などの役割を担って貰い、気晴らしや楽しみごとの支援をしている。お茶の先生だった利用者に活躍してもらうことも検討している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の所持や計算の可能な方はご自身で所有管理されている。一緒に買い物に出かけ自分で支払ったり、職員に依頼し、正確に買い物の代金の支払いをされたりしている。	※	外出した際は自分の財布からお金を出す機会を作り、社会性の維持につなげる。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 買い物に行く機会が日常的にある。近くの公園に散歩に行ったりしている。  (外部評価) 食材の買い物、利用者の要望の買い物や散歩、利用者の実家の畑へ出かけるなど、利用者の日々の希望に添って戸外に出かける支援をしている。	※	職員優先にならず、外出する利用者や時間帯や行き先が固定されないように、本人に合わせた移動方法で外出支援する。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) お気に入りの職員と外食をしたり、家族と出かけたりする機会を作っている。シーズンによって、イチゴ狩りや花見に出かけたりしている。	※	利用者の思いが出された外出は、実現するための方策を職員で話し合い、検討し、支援につなげる。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は自由にかけてもらっている。家族には本人が絵葉書や、年賀状を出す支援をしている。	※	絵手紙に挑戦し、便りを出す機会を増やす。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 時間を問わず、自由に訪問することができ、居室やリビングでくつろいでもらえるようにしている。		知人には、家にいたとき訪ねていたときと同じように、足を運んでもらえることを知らせる。



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行わないということを、職員全員が認識しており、徹底されている。	※	気づかない言葉や動作による拘束に目を向けることができ、気づいたときに職員間で声かけのできる関係を作る。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間帯のみ玄関に施錠しているが、それ以外は居室や玄関に一切施錠していない。  (外部評価) 日中は鍵をかけずチャイム等で対応し、チャイムの音と利用者の行動のパターンを把握したうえで見守りしている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 一人ひとりが現在何をして過ごしているかの把握に努め、夜間は定期的に巡室を行っている。内から施錠している方は、外から様子のみ伺うようにしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) バリアのある生活が日常の生活であるという観点から、注意の必要なものを全てなくすのではなく、注意の必要なものと共存し生活するために、職員一人ひとりが注意し配置を考えたり、刃物等の収納場所を工夫している。	※	危険なものを全て取り除くのではなく、注意が必要な物、箇所を職員がしっかり把握し、管理過剰にせず、危険防止力も身につける。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 転倒防止のため見守りに留意している。誤薬を防ぐため内服管理を厳重に行い、内服時は付き添い、見守りに努めているが、ご自身で薬の管理をされている方（本人の強い希望）もあり、把握が困難な場合もある。	※	ヒヤリハットを簡単に記録できるものにし、事故防止に役立てる。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 十分ではない	※	定期的に訓練を行う。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 毎月19日に避難訓練を事業所独自で実施している。Bユニット利用者の避難に難点がある。	※	その際、地域の方への呼びかけをおこなってきたい。
			(外部評価) 消防署の協力のもと年2回の避難訓練と防火訓練を実施し、緊急時の連絡網を使い夜間の避難訓練も行った。模擬訓練での課題を認識して、今年度から毎月19日に避難訓練を実施することになっている。しかし、災害時の近所の協力体制がまだ得られていない。	※	2階からの避難が特に困難であることから、近隣住民の協力を得られるための取り組みを望む。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 家族が訪問に来られたときに、リスクについての話もすることがある。	※	家族との話し合いの場を増やしていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 入浴時に皮膚や外見の異変を観察したり、毎日バイタルチェックを行い血圧や体温の変動に留意している。食欲の変化や排泄の周期にも留意し、対応に結び付けている。		顔色、機嫌、動作、食欲、皮膚の様子等いつでも注意し兆候を見落とさない。バイタルチェックだけに頼らない力を育てていく。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬に日付等を書き、一人ひとりの薬を個別に管理し用法や用量を理解し、医師の指示どおり適切に内服を行っている。	※	薬の目的、効果、用法、副作用など勉強会をして、しっかり把握できるようにしたい。漫然と服薬を続けるのではなく、医師に情報提供をし、少しでも薬が減るようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) もっときめ細やかな工夫が必要だと思う。	※	果物、野菜、乳製品、水分の摂取量、運動等に留意していきたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 居室に洗面台があり、口腔の清潔保持に努めている。入れ歯の方は週2回ポリドント洗浄を実施している。	※	毎日の歯磨きについては、本人任せになっている方もおり、もっと配慮していきたい。歯科技工士をされていた入居者がおり、その方に歯磨き指導をしてもらえるよう取り組んでいきたい。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの摂取量を把握し、一覧表にしている。一人ひとりの嫌いな食材については、出来るだけ排除している。水分摂取量も毎日チェックし書き込んでいる。  (外部評価) 水分摂取量を一人ひとり記録し、居室にもペットボトルやミニボトルを用意し、いつでも摂れるよう配慮して必要量を確保している。献立は管理栄養士作成の季節ごとのサンプルから、利用者の好みを考慮して立てている。しかし、日々の食事摂取量や栄養バランスについて専門家のアドバイスを受けていない。	※	定期的な管理栄養士の専門的アドバイスをもらいたい。  職員が献立を作成し、その後栄養士にチェックしてもらおう等の工夫で、より栄養バランス等に配慮することを期待する。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 手洗いの励行。インフルエンザに関しては、毎年職員、入居者共に予防接種を受けている。排泄物の取り扱いには手袋を使用し、適宜消毒液の使用も実施している。	※	起こり得る感染症について、細かくマニュアルを作成する。 職員の体調管理は当然だが、体調を崩したときの感染を防ぐための取り決めを作る。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材は毎日届くようになっており、いつも新鮮なものを使える。調理用具は食洗機で殺菌を行っており、まな板や布巾も毎日ハイター消毒している。冷蔵庫は毎週日曜日に定期的に掃除している。	※	冷蔵庫の中にある物で献立を増やしたり、献立を変えたりできる。 点検や掃除は職員全員が気にとめることができる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関ポーチにはベンチが設置されており、気軽に腰をかけていただけるようにしている。建物周囲に菜園や花壇を設けており、駐車場も広くオープンで出入りしやすくなっている。	※	近所の人が散歩途中に休憩したり、子供達が気軽に遊びに来れる庭先にしたい。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングには四季折々の草花を飾り、めだかや金魚も飼育している。壁に季節感が分かるような飾り付けをしている。  (外部評価) 玄関は段差がなく、廊下はゆったりと広く、手すりを設置して利用者の行き来に配慮している。居間は全員が囲める食卓とソファが置かれ、外光を十分に採り入れ明るく、手作りの絵や作品を飾っている。浴室は転倒防止、危険防止にきめ細かい配慮がある。		壁面の飾りは季節感を出し、季節を感じ取ってもらえるよう工夫したり、利用者に製作してもらったりする。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングでの座席の配置は、人間関係や、その方の体格に配慮した位置にしている。また、そのときの体調や気持ちの変化に応じて席を変える等工夫している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家具等は家庭で使い慣れたものを使用してもらっているが、消防法により、カーテンやじゅうたんは防災加工のものを使用している。居室でテレビや冷蔵庫を使用している方もおられる。  (外部評価) 利用者それぞれの好みの物や使い慣れたベッドやテレビ、手芸品、写真等を飾り、それぞれに個性がある。火災防止のため、カーテンとカーペットは防火用のものを使用している。名札は木札と写真入の物を掛けている。	※	殺風景な居室で生活している入居者の家族と、馴染みの物の大切さを話し合いたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 居室の換気扇は常に作動しており、毎日の掃除の際や日中等、網戸にして換気に努めている。今年は猛暑のため暑いと訴えられる方が多く、エアコンを使用する頻度が多くなっている。夜間はつけたままにならないよう、巡室の際に注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 特に浴室やトイレは、手すりや足代等を工夫し、その方の体格に応じた補助具を使用している。食卓のテーブルも3種類の高さにしており、椅子も体格に合わせ、高さを変えている。	※	一人ひとりの利用しやすい環境になるよう、日々観察、修繕できる力を育てたい。「まあいいか」という気持ちにならない。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 入居者の出来ること、出来そうなことについては、手や口を極力出さず見守ったり、一緒に行くようにしている。	※	入居者の動作や言動、表情などで、気持ちが汲みとれる職員でありたい。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花壇や菜園を設け四季折々の草花や野菜を栽培しており、入居者の方々と、草引きをしたり、収穫を楽しんだりしている。		庭での食事やおやつを楽しむ。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	一人ひとりと関わりを持ち、その都度意見や要望を伺うようにしている。個別外出等の支援を行っている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	全員とはいかないが、入浴時に世間話をしたり、夜間等に要望や訴えを聞いたりしている。また、食事やおやつの時間を共有し、家庭的な憩いの時間となっている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	一人ひとりのペースをなるべく崩さず、それぞれに応じた生活をしていただいている。朝起きるのが遅い方は、時間をずらして朝食をもらい、夜寝るのが遅くても職員が話し相手になったりしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	ほとんどの方に毎日笑顔が見られる。台所仕事を楽しそうにしている。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	自立度の高い方は、職員と買い物に出かけたりしている。毎日のように生家に帰りたいと言われる方や、カラオケに行きたいと言われる方の要望に添えていない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	心身の変化や異常発生時に、気軽に相談出来る医療関係者を確保している。2階の入居者で目の見えにくい方や、車椅子の方の緊急時の避難等に不安がある。夜間や休日の体調の急変にかかりつけ医の対応がないとき、救急病院に依頼する。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	その都度できる限り要望に応えられるように、柔軟に対応している。入居者の出来ること、出来ないことを見極め、無理なく出来ることを支援している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	面会時に要望を伺い、ご家族の意向に添えるよう努力しており、ご家族も安心していただいていると感じる。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	近隣の保育園児等の訪問がある。近所の子供たちが遊びに来る。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議で地域の方から、色々な意見をいただいている。行事、イベントに地域の方の参加人数が増えた。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	笑顔で入居者と共に時間を共有しており生き活きと働いていると感じる。時々、仕事に追われて業務をこなすだけの様子も見られる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	笑顔が多く、感謝の言葉もよく聞かれる。外泊をして帰ってこられた際、「やっぱりここがええ」と言ってくれたり、ほっとした様子が見られたりする。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会に来られた際に、要望等伺っているが、特になくて「よくしてもらっている」との声が多い。しかし、遠慮して本心が言えないでいる家族もいるかもしれない。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・学習療法---公文の学習療法を取り入れている。
- ・入浴---心地よく安全な入浴をしていただけるよう、補助具の制作を行い使用している。
- ・排泄---気持ちよく排泄していただけるようこまめなトイレ誘導をし、補助具(足台等)の制作を行い使用している。
- ・センター方式---その人らしい以前の生活を知り、生き活きとした生活をしていただけるよう、少しずつセンター方式を取り入れている。
- ・食生活の充実---無駄を省き一人ひとりに合わせた分量や形態、体調に合わせた食事作りを行っている。

緑がいっぱいでのどかな環境に位置し、毎日ほのぼのとした生活をしています。お花見、いちご狩り、バーベキュー、餅つき、お祭り等年間行事も豊富で家族、地域、ボランティア等の協力をいただき、入居者、スタッフとも生き活きと生活しています。入居者と職員が寄り添って楽しい日々を送ることが出来る介護を目指しています。自分が認知症になったとき入りたいと思える施設です。